

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成31年2月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】好調さを維持する一方で、受注の鈍化等の懸念もある

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数では、電気機械やプラスチック製品が前月比上昇したものの、化学工業が大幅に低下した。ヒアリングにおいては、自動車関連ではこれまで同様、好調な様子が窺えるものの、機械関連では中国市場の減退に伴い、受注量の落ち着きや、将来的な影響を不安視する企業も見られる。

【地場産業】厳しい状況が続いている

○地場産業は、鉱工業生産指数で家具や木材・木製品で前月比大幅な上昇が見られたが、パルプ・紙、食料品で前月比低下となった。原材料の高騰や人手不足等、依然として厳しい状況にあるものの、中には好調さを示すヒアリングも聞かれる。

【設備投資】投資姿勢が二極化している

○設備投資は、工作機械受注額について、国内、海外向けともに前年を下回り、貿易摩擦の影響が顕在化している。ヒアリングでは、来年度の設備投資を検討する中で、大型の設備投資を計画する企業もあれば、消極的な企業もあり、二極化の状態にある。

【個人消費】年末消費の反動が見られる

○個人消費は、年末需要の伸びの反動減で、例月水準に戻った上、百貨店・スーパーが不調であり、全体としても前年同月を下回った。また、一部に日欧EPAや消費増税に伴う駆け込み需要の影響が見え始めている。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った

○観光は、1ヶ月を通して天候に恵まれ、観光客数は前年同月比4ヶ月連続で、宿泊客数も同比3ヶ月連続で前年を上回った。

【資金繰り】資金繰り環境に変化はないが、外部要因による影響が懸念される

○企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、米中貿易摩擦や消費増税、英国のEU離脱問題等、様々な外部要因による影響も懸念される。

【雇用】人手不足の状態が慢性化している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする一方で、県内中小企業にとっては、採用活動が困難を極めており、業種を問わず、依然として人手不足が慢性化した状態であり、外国人の起用等の対策も講じられている。